

全附P連 第15回附属OB訪問

チームラボ 代表

全附P連会長



# ZENFUREN 猪子寿之氏 × 桑名良尚

## ひとりで立ち向かう必要はないし、闘わなくてもいい。



**何もわからなかったから東大へ**  
 桑名 一つ頃からチームラボのようなアート集団をつくらうと考えたのですか。  
 猪子 高校生ぐらいかな。おじいちゃんや親が歯医者でね。継がなきゃいけない雰囲気があったんだけど、なんか嫌だと思ってたんだよね。家族のことは尊敬してたけど、桑名 私の子どもも高校生になる時に歯医者の私とは違う別の道へ進むというので、家族で応援してあげたいと思いました。  
 猪子 自分は歯医者以外の道に進むことを親にわかってもらうために結構頑張ったよね。反抗もしたね。  
 桑名 地元を離れて東京へ行くことについて、ご家族の理解を得ていたのですか。  
 猪子 学校はどこでもいい感じだったかな。歯医者の免許を取れるなら、どこでもいいって考えていたと思うよ。  
 桑名 しかし、猪子さんは何か新しい価値観を創造したいと考えられていた。

## 知を積み上げる

**猪子** 世界に与えるインパクトだね。高校生の頃から世界をちょっとでもいい方向に変えたいと思っていたし、何か影響を与えたいとずっと考えていたんだよね。  
**桑名** 子どもの頃から多くのひとに関わるようなことがしたいと考えていたのですね。  
**猪子** でも、当時は何もわからなかったよ。わかることは良い学校に行けば、どうにかなるんじゃないかっていうことだけだね。東大にいけば、みんなが日本で一番の大学だと言ってるし、東京にも行けるし、何か見えるかもしれないと思っただんだよね。  
**桑名** そして、東京大学へ進学されました。  
**猪子** 勉強は頑張ったよね。基礎的な勉強だよ。でもこれって、人間の極めて汎用的な知だよ。だから積み上げるし大切なんだ。  
**桑名** 今、振り返っても基礎的な勉強は大事なことですね。  
**猪子** 小学生の時から、知は積み上げなきゃいけないんだよね。けど、もし子どもの頃から色々なことがわかっていたら、大学には行かなかったかもね。  
**桑名** それはどうですか。  
**猪子** 大学に行くか行かないかなんて、結局はあまり関係ないんだよ。学歴は社会で何を成すか、そういうものに直接つながらないんだよ。でも、何もわからなかったから勉強を頑張っただけだね。もし全てがわかってたら勉強する必要がないもんね。  
**次元を上げて世界を変える**  
**桑名** 子どもの頃に今のご自身の姿は想像できましたか。  
**猪子** 全くできなかったよね。高校生の時にこうだった社会になって、こうだったことをしてるなんて想像できなかったよ。今みたいな未来を誰も想像できなかったと思うね。  
**桑名** 社会が時間や知を懸命に積み上げてきたからこそ、三十年前に誰も想像できなかった未来をつくることのできたのですね。  
**猪子** だから子どもの頃は、何もわからなくても大丈夫だよ。三十年後のことなんてわからないんだから。今は、汎用的な知を時間をかけて身につけていくことが大切だね。

**猪子** 世界に与えるインパクトだね。高校生の頃から世界をちょっとでもいい方向に変えたいと思っていたし、何か影響を与えたいとずっと考えていたんだよね。  
**桑名** 子どもの頃から多くのひとに関わるようなことがしたいと考えていたのですね。  
**猪子** でも、当時は何もわからなかったよ。わかることは良い学校に行けば、どうにかなるんじゃないかっていうことだけだね。東大にいけば、みんなが日本で一番の大学だと言ってるし、東京にも行けるし、何か見えるかもしれないと思っただんだよね。  
**桑名** そして、東京大学へ進学されました。  
**猪子** 勉強は頑張ったよね。基礎的な勉強だよ。でもこれって、人間の極めて汎用的な知だよ。だから積み上げるし大切なんだ。  
**桑名** 今、振り返っても基礎的な勉強は大事なことですね。  
**猪子** 小学生の時から、知は積み上げなきゃいけないんだよね。けど、もし子どもの頃から色々なことがわかっていたら、大学には行かなかったかもね。  
**桑名** それはどうですか。  
**猪子** 大学に行くか行かないかなんて、結局はあまり関係ないんだよ。学歴は社会で何を成すか、そういうものに直接つながらないんだよ。でも、何もわからなかったから勉強を頑張っただけだね。もし全てがわかってたら勉強する必要がないもんね。  
**次元を上げて世界を変える**  
**桑名** 子どもの頃に今のご自身の姿は想像できましたか。  
**猪子** 全くできなかったよね。高校生の時にこうだった社会になって、こうだったことをしてるなんて想像できなかったよ。今みたいな未来を誰も想像できなかったと思うね。  
**桑名** 社会が時間や知を懸命に積み上げてきたからこそ、三十年前に誰も想像できなかった未来をつくることのできたのですね。  
**猪子** だから子どもの頃は、何もわからなくても大丈夫だよ。三十年後のことなんてわからないんだから。今は、汎用的な知を時間をかけて身につけていくことが大切だね。



チームラボ提供資料  
森ビル デジタルアート ミュージアム：エプソン チームラボボーダレス 麻布台ヒルズ|東京|2024年2月開館



チームラボ提供資料  
teamLab Phenomena Abu Dhabi  
サディヤット文化地区|アブダビ|2024年竣工

**子どもたちへのメッセージ**  
 桑名 最後に全国の子どもたちへメッセージをお願いします。  
**猪子** 知は素晴らしいけれど、常識は明日には変わってしまうかもしれない。知は人類が何千年何万年と積み上げてきたものだけど、常識とか倫理観は、この時代だけのもの。十年後は変わってるかもしれない。だから知と常識を一緒に考えたらダメだよ。切り分けることが大切なんだ。常識は地域やバックボーンが違うとすぐ変わるんだから。そういうものが同じではないことを知って、切り分けて考え続ける、周りから押し付けられる常識みたいなものに飲み込まれないようにするっていいんじゃないかと思うよ。  
**桑名** 常識という枠の中で留まると、常識は疑えないですね。  
**猪子** 常識にあまり慣れすぎないようにした方がいいと思うよ。ただ、ひとりでそれに立ち向かうとすると疲れちゃうよ。ひとりで立ち向かう必要はないし、闘わなくてもいい。だって、いつも闘ってたら疲れちゃうよ。でも、もし一緒に立ち向かってくれるひとがいればいいよね。そういう仲間って、本当に大事だよ。  
**桑名** チームラボも多くの仲間と世界の常識に立ち向かい、新しい未来の価値観を創造されようとしています。本日は予定を超えて、長い時間に渡り貴重なお話を聴くことができました。本当にありがとうございます。  
 【令和六年三月十五日 / teamLab Studio / 文責 光敬應】

高校生の頃から世界をちょっとでもいい方向に変えたいと思っていたし、何か影響を与えたいとずっと考えていたんだよね。



# ZENFUREN

全附連 | 全国国立大学附属学校連盟・一般社団法人全国国立大学附属学校 P T A 連合会

子どもたちとこの国の未来のために

## 第15回 附属OB訪問

鳴門教育大学附属中学校OBで、アート集団チームラボの代表として、世界でご活躍する猪子寿之さんを訪問しました。時代の先端を探究するクリエイターに子どもの頃の思い出や、学ぶことの大切さについて、飾らない言葉で語っていただきました。新しい世界を切り拓く先輩から子どもたちへのメッセージです。

猪子 寿之 / INOKO Toshiyuki

チームラボ 代表 | 1977年生 | 徳島市出身  
2001年東京大学工学部卒業と同時にチームラボを創業



## 猪子寿之氏 × 桑名良尚

チームラボ代表

全附P連会長

## 森での遊びが原体験

P T A は悪の組織？

**猪子** 普段の仕事は何をしてるの。  
**桑名** 歯医者です。  
**猪子** じゃ、今日は診療所をお休みにして。  
**桑名** はい、休診にして来ました。  
**猪子** 何で、診療所よりも P T A が楽しいの。  
**桑名** 診療所はこれからもやり続けることができますが、P T A は子どもが学校に通っているこの時期しか関わることができません。子どもとの会話も生まれますし、多くの方からお話を聴く機会に恵まれるのも魅力です。  
**猪子** でも P T A って、社会で「悪の組織」みたいに言われているよね。  
**桑名** そういうイメージがありますか。  
**猪子** 自主的に関わるならいいけど、義務的だといえないよね。P T A って、存在自体が義務的で強制的じゃない。社会は夜も動いていて、二四時間、誰かが働いているんだよ。それぞれに都合があるよね。  
**桑名** 本来 P T A は自主的であるべきです。  
**猪子** 義務教育の期間とは、二四時間、ずっと学校が開かれているとか、全く発想を変えてみなが子育てができる環境をつくっていくことが必要だよな。

チームラボの未来的空間

**桑名** チームラボの取組みは、世界中で支持されています。  
**猪子** 昨年、海外からの観光客が一番訪れたのが、豊洲のチームラボプラネッツなんだ。清水寺を抑えてだよ。世界でも万里の長城やアンコールワットといった世界遺産を抑えてアジアを代表する観光名所にワールド・トラベル・アワードで認定されたね。  
**桑名** 何百年何千年という時間を重ねてきた場所に、今この時代に創造された空間が並び立っていることが驚きです。  
**猪子** チームラボプラネッツは、大英博物館やルーブル美術館と一緒にグーグルで世界中から検索されていて、注目度が高いんだよ。  
**桑名** 今年二月にオープンした麻布台ヒルズのアートミュージアムや、今秋に完成予定のアブダビの美術館も印象的です。



チームラボ提供資料  
森ビル デジタルアート ミュージアム：エプソン チームラボボーダレス 麻布台ヒルズ|東京|2024年2月開館

**猪子** 麻布台は、お台場にあったチームラボボーダレスの移転なんだけど、その教育的なプロジェクトを継いでいてね。アブダビは、ひとつのエリアに過去のアートを展示するループ、現代のアートを展示するグッゲンハイム、そして未来的なアートを展示するチームラボが近接して計画されているんだ。  
**桑名** チームラボのアート展は、子どもから大人まで楽しめます。  
**猪子** 是非みんなにチームラボの空間を体験して欲しいよね。  
**境界のない世界**  
**桑名** 猪子さんは、徳島市のご出身で、公立の小学校から鳴門教育大学附属中学校に進学されました。子どもの頃はどのような遊び方をされていたか。  
**猪子** 市の中心部にある小学校に通っていたんだけど、その裏に城山があったね。森が手入れされずに原生林のままで残ってたんだ。その森って、光が入らず真つ暗だね。木の根や葎が絡み合っていて、樹齢千年以上の木が倒れながらも生きていたり。どこまでが森かわからなくて、境界がないんだよね。  
**桑名** まさしくボーダレスな世界ですね。



チームラボ提供資料  
チームラボプラネッツ TOKYO DMM  
豊洲|東京|2018年7月7日-2027年末

**猪子** どこまでも連続しててね。どこまでが単体で存在してるかわからないまま、ひとつの森が毅然と存在しているんだよね。  
**桑名** 全てがつながっているんですね。  
**猪子** 森を歩くと地面に足跡がついて、落ちている枝を踏むとその枝が折れて、自分を含めて全ての存在や生命が、関係しているっていう実感が確かにあったんだよね。  
**桑名** その実感が原体験となったんですね。  
**猪子** その城山には道が一本あって、子どもだからその道を逸れて森に入っていくよね。子どもの頃にそういう立体的な空間で遊んでいたことが原体験になって、今につながっていると思うんだよね。

生命は渦のようなもの

**桑名** 先ほどの話の中に生命も関係しているという言葉がありました。  
**猪子** 本来、生命っていうのも連続性の中で存在しているんだよ。生命は独立してそれを直感的に感じたんだよね。生命は独立しているんじゃないかって、複雑に絡み合っていることを、森で学んだんだと思う。  
**桑名** 現代は、生命の連なりや関係が身近に感じにくい時代かもしれないね。  
**猪子** 生命っていうのは渦のようなもので、渦って水の中でしか存在できないよね。それと同じで、全ての生命は独立して存在しているように見えるけど、単体の構造を持っている訳じゃなくて、関係し合いながら社会の中でつながって生きているんだよね。【企画 藤く】

森を歩くと地面に足跡がついて、落ちている枝を踏むとその枝が折れて。自分を含めて全ての存在や生命が、関係しているっていう実感があった。

# 令和6年度 全附P連 活動方針

直前会長 | 副会長 | 委員長 | 監事 | 地区会長

全附P連は、全国の附属学校の現状と求められる使命を十分に理解したうえでその絆を生かし、子どもたちの学習環境の充実と安心安全の確保、さらに附属学校の発展や、国立学校としてこの国の未来の公教育の振興に寄与することを目的とし、PTA活動の実践と研鑽を推進します。また、各諸団体と連携しながら附属学校の創造性や独自性、社会的使命、存在意義、現状などを社会へ向けて情報発信し、広く社会の理解と支援が得られるよう積極的な活動を展開します。

<b>大竹 昌士</b> 直前会長 国立大学附属学校のサポーターとして、会長からの諮問に応じ、これまでの経験を活かした活動を通して貢献してまいります。	<b>宮本 昌尚</b> 副会長 本年度、総務および研修担当副会長をさせていただきます。新時代の全国大会を目指し、諸会議や事業の運営、準備をしてまいります。	<b>森川 誠</b> 副会長 適正な予算執行による財務管理、カンガル保険の見直し、PTA研修会全国大会の運営に取り組み、公教育に資するよう活動します。
<b>齋藤 伸</b> 副会長 特別支援学校・学級と幼稚園のみながいききと活動できるよう応援します！附属学校園をつなぐやわらかな広報を心掛けます。	<b>田城 敏之</b> 専務理事 日本の未来を担う子どもたちのために、会長を補佐し会務と事務局の円滑な運営に全力で取り組んでまいります。	<b>西村 寧</b> 総務委員長 子どもたちのために活動する全附P連組織の円滑な働きを支える潤滑油のような存在とされるよう、1年間努めてまいります。
<b>後藤 友樹</b> 財務委員長 財務業務を中心に、カンガル保険の推進、財政金融教育プログラムの推奨、いじめ防止対策事業に積極的に取り組んでいきます。	<b>世古 丈人</b> 広報委員長 全国の附属学校およびPTAの活動を社会に向けて広く周知するため、情報発信力を高め、魅力溢れる広報活動に取り組んでいきます。	<b>真壁 雄一</b> 研修委員長 全国大会は、皆様により有益な情報をお届けし、学び・出会いのある研修会です。心に残る全国大会になるよう、努力してまいります。
<b>羌 叡應</b> 特別委員長 多様性を包摂する共生社会のなかで、子どもたちの健やかな成長と学びを支えるとともに横断的な連携による委員会運営を遂行します。	<b>田口 智之</b> 監事 子どもたちとこの国の未来のために、全附P連の様々な活動が適切に行われていくことを担保するよう、監査業務に努めてまいります。	<b>高地 たか子</b> 監事 監事を仰せつかりました。健全な会の運営を俯瞰で確認しつつ、より良い教育環境作りに協力したい、と思いを新たにしております。
<b>中瀬 正貴</b> 北海道地区会長 地区の学校園や後援会と連携し、失われた3年間を取り戻し、子どもたちのために学校と家庭を繋ぐ架け橋でありたいと考えています。	<b>細江 大樹</b> 東北地区会長 本年度の東北附連PTA会長会は、山形市で開催されます。課題を共有し、活発な意見交換、交流を行えるよう準備を進めて参ります。	<b>森田 康弘</b> 関東地区会長 AVUCAの時代だからこそ、附属学校園で連携を図り、子どもたちの未来のための教育環境の充実に向けてまいります。
<b>相田 菜穂子</b> 北信越地区会長 子どもたちが安心して生活できる地域づくりを念頭に、各学校園の取り組みを共有しながら活動を未来に繋げてまいります。	<b>山口 貴史</b> 東海地区会長 子どもたちの明るい未来のために、また附属学校がより魅力的な存在とされるよう、時代に即したPTA活動を心がけてまいります。	<b>森川 誠</b> 近畿地区会長 附属学校の取組みを情報共有し、PTA会長の悩みや不安をともに解決できるよう支援を行い、近附連盟とともに活動していきます。
<b>小藤 智也</b> 中国地区会長 地区5県の附属学校間での連携強化を図り、全附P連や他の地区会と情報を共有し、組織改革を進め課題解決に取り組んでいきます。	<b>原野 美沙</b> 四国地区会長 全国と四国地区の懸け橋となれるように、他附属学校園との連携をより一層推進しつつ、子どもたちの笑顔のために活動していきます。	<b>西田 知弘</b> 九州地区会長 仲間である全国の附属学校園の皆様と情報共有や意見交換をおこない、子どもたちが楽しく学校生活を送れるよう活動していきます。

# 令和6年度 全附P連 組織図

役員 | 理事 | 監事 | 顧問 | 評議員

<b>直前会長</b> 大竹 昌士 令和3・4年度会長	<b>会長</b> 桑名 良尚 (三重小)	<b>監事</b> 田口 智之 令和4年度 副会長 高地 たか子 令和5年度副会長	<b>専務理事</b> 田城 敏史 (島根義務教育後期)	<b>事務局</b> 事務局長 彦坂 秀樹 主事 美野 未来
<b>担当副会長(主)</b> 宮本 昌尚 (香川坂出幼小中)	<b>担当副会長(副)</b> 田城 敏史(兼) 田城 敏史(兼)	<b>委員会</b> 委員長 西村 寧 (滋賀小)	<b>実行委員会・特別委員会</b> 全国大会 実行委員長 宮本 昌尚(兼) 特別委員会 委員長 羌 叡應(兼)	
<b>副委員長</b> 村上 哲平 (静岡浜松小) 間宮 達紀 (千葉小)	<b>副委員長</b> 山中 達郎 (鳥取中) 堀 毅文 (福岡教育福岡中)	<b>副委員長</b> 長谷川 康介 (函館小) 堀 毅文 (福岡教育福岡中)	<b>副委員長</b> 小川 浩司 (鳴門教育小) 中島 菊子 (東京学芸小金井小)	<b>副委員長</b> 小池 秀樹 (上越中) 安岡 憲幸 (愛媛中)
<b>連盟選出理事</b> 塚本 博則 (東京学芸小金井小)	<b>連盟選出理事</b> 辻本 堅二 (大阪教育池田中)	<b>連盟選出理事</b> 細矢 和博 (東大中等教育)	<b>全理事</b> 全国大会準備員	<b>全理事</b> 岡部太郎、安村俊己、 奥本啓郎、増田梓、 板倉雄一郎
<b>顧問</b> 神余 智夫 令和元・2年度会長	<b>顧問</b> 秋原 清明 令和4年度 副会長	<b>顧問</b> 二村 美里 令和5年度副会長	<b>顧問</b> 幡谷 公朗 全附後連直前理事長	
<b>評議員</b> 北海道地区(会長 中瀬 正貴) 中瀬 正貴 北信越地区(会長 相田 菜穂子) 相田 菜穂子 中国地区(会長 小藤 智也) 小藤 智也	<b>評議員</b> 東北地区(会長 細江 大樹) 細江 大樹 東海地区(会長 山口 貴史) 山口 貴史 四国地区(会長 原野 美沙) 原野 美沙	<b>評議員</b> 関東地区(会長 森田 康弘) 森田 康弘 近畿地区(会長 森川 誠) 森川 誠 九州地区(会長 西田 知弘) 西田 知弘	<b>評議員</b> 山口 泰一 (お茶の水女子中) 井上 周 (大阪教育平野小) 岩切 崇徳 (宮崎中)	
<b>連盟選出評議員</b> 木村 勝彦 (元茨城小)	<b>連盟選出評議員</b> 太田 千佳子 (元北海道教育特支)	<b>連盟選出評議員</b> 吉田 裕亮 (元お茶の水女子高)	<b>連盟選出評議員</b> 鎌田 正裕 (元東京学芸竹早幼小)	<b>連盟選出評議員</b> 吉田 隆 (元奈良女子中等教育)

# 会長に桑名良尚が再任

## 全附P連 令和6年度総会開催

第七二回一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会(全附P連)総会が、六月一日(土)に東京学芸大学小金井キャンパスで開催されました。

総会は二部で構成され、一部は、令和五年度会長挨拶から始まり、来賓挨拶の後は、文部科学省総合教育政策局教員人材政策課教員養成企画室長である小倉基靖氏より行政説明を行っていただきました。その後は、全附P連の組織構成や附属学校に通う子どもたちの異動状況について報告がなされ、続いて、令和五年度の事業報告や取次決算報告、令和六年度役員承継について審議され、全て賛成多数にて可決されました。



「令和5年度全附P連PTA団体表彰」を受賞した代表者の皆様

## 「第72回 全附P連総会」開催 6月1日(土) 東京学芸大学小金井キャンパス

その後の休会中に、令和六年度新理事や監事による第一回理事会が開催され、令和六年度会長は、令和五年度引き続き、二期目を迎える桑名良尚氏が再選され、総会の再開後は、理事会での選任について報告されました。続いて、令和六年度の事業計画案および取次予算案が審議され、全て賛成多数にて可決されました。

日頃から、PTA活動を通じ、子どもたちの健全育成のためにご尽力いただき、誠にありがとうございます。私は、昨年九月に現職に就任しましたが、光栄にも、これまでいくつかの附属学校を訪問する機会をいただきました。そこでは、一人一台端末を自発的に用いる授業風景や、個別最適な学び・協働的な学びの姿を垣間見ることができました。



文部科学省  
総合教育政策局  
教員人材政策課  
教員養成企画室長  
小倉 基靖氏

## 能登半島地震 教訓を活かして



北信越地区  
国立大学附属学校  
PTA連合会  
令和5年度会長  
坪田 大輝氏

令和六年一月一日、石川県能登半島を中心に大規模地震が発生しました。震度は東日本大震災に匹敵し、多くの犠牲者が出ました。倒壊、火災、津波、土砂崩れ、地盤隆起など被害は様々です。復興も遅れ、まだ手付かずの場所が多くあります。

## LINE UP 大学・附属学校とともに

- 1面・12面—
- 附属OB訪問
- 4面—
- 金融経済教育
- 5面—
- 全附連盟特集
- 6面・7面—
- 全附P連特集
- 8面—
- 幼特活動特集
- 9面—
- 作文・絵作文
- 10面—
- 全附P連表彰

一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会  
会長 桑名 良尚 (三重大学教育学部附属小学校)



教育基本法の理念・目的・目標・機会均等の実現を理解し、大学・附属学校とともに実践していくPTAを目指します。まさに今は、先行きが不透明で将来の予測が困難な時代ですが、先達たちが築いてきた教育の「不易」があり、それを普遍的な使命としつつ、社会や時代の「流行」の波の中、大きな船の羅針盤となる教育基本法に則り、学校と歩調を合わせPTA活動に励んでほしいです。不易流行の元にある教育の本質的価値を実現するために、羅針盤の指し示す方向に向けて必要な教育政策を実行していきけるよう、また国立大学附属として、どのような教育環境が今に適しているのかを研究し、エビデンスを示し、国立大学附属学校がこの羅針盤とともにあることを認識し、大学・附属学校だけでなく、我々保護者も思考し、意見を出し合い、実践しましょう。難しい問題であることは間違いありませんが子どもたちの未来のために共に学んでいきましょう。

## 全附連盟 新理事長として

全国国立大学附属学校連盟  
理事長 木山 慶子 (群馬大学共同教育学部附属特別支援学校長)



全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現にむけて  
変化の著しい現代社会の中で、誰一人取り残すことなく、子どもたちが自分らしく個々の学びを獲得することは重要な課題であり、学校教育の責任です。教育現場では、子ども一人一人の特性や学習進度に応じ、指導方法・教材の柔軟な提供と設定を行うことや探究的な学習・体験活動などを通じ、子ども同士や地域の方々をはじめ多様な他者と協働することが求められています。全国の国立大学附属学校園においてもこれらの課題に真摯に取り組み、日々の教育活動を進めております。これからも、附属園が相互に協力し合い、明るい未来を切り拓く子どもたちの資質・能力の育成に尽力してまいります。引き続きお力添えくださいますようよろしくお願いいたします。

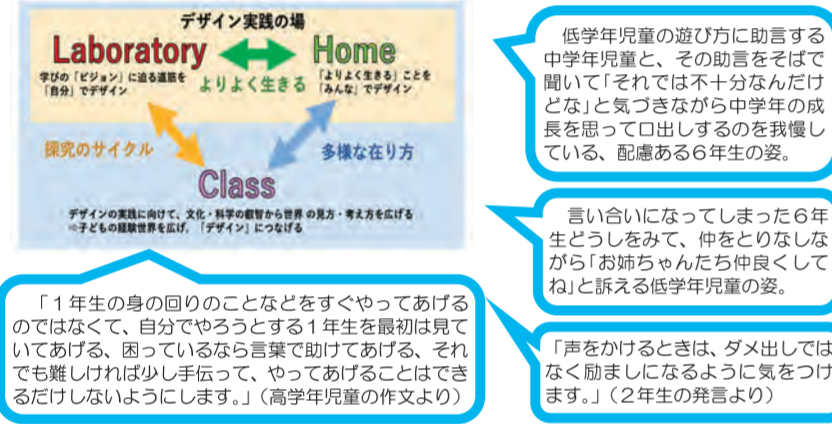
全附連盟特集

「子どもたちの未来を見据えた先進教育」

東京学芸大学附属世田谷小学校の研究

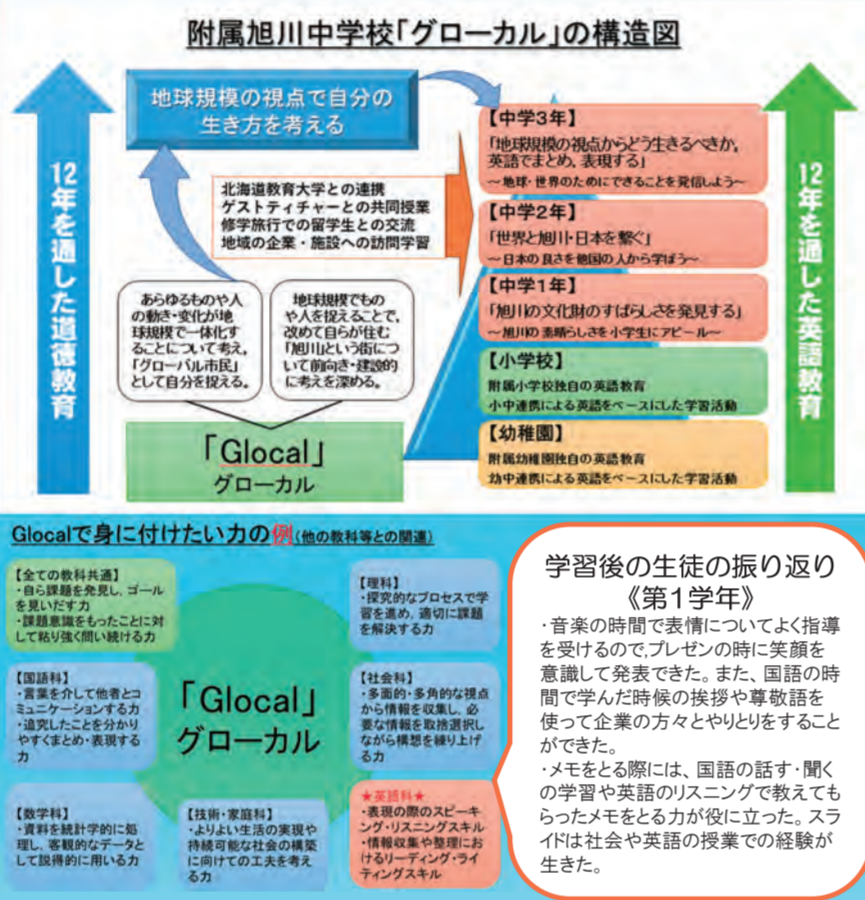
本校では、昨年度まで文部科学省の研究開発学校の指定を受け、研究開発課題を「未来社会を創造的に生きる『学びを自分でデザインする子』を育成する、Laboratory・Home・Classの3領域で学ぶ教育課程及び学習環境デザインの研究開発」と設定し、取り組んできました。
「Laboratory」は個のデザインを実験的に実践する場、「Home」は異年齢集団における生活自体のデザインを実践する場、「Class」は通常の教科学習に当たり、同年齢集団で文化や科学の叡智について学びを深めたり、「学び方」を学んだりする場です。
今年度は、教育課程特例校の指定を受け、これらの機能が効果的に働いたための学習環境の整備を検討するとともに、研究開発学校の指定を受けていない学校でも実施可能な教育課程として一般化を目指し、広く発信していくことを目指しています。

Table with 7 columns: 朝 (Morning), 1時間目 (1st Period), 2時間目 (2nd Period), 中休み (Lunch Break), 3時間目 (3rd Period), 4時間目 (4th Period), 昼食時 (Lunch), 5時間目 (5th Period), 6時間目 (6th Period), 最終下校 (End of Day). Rows include Home, Class, and Laboratory activities.



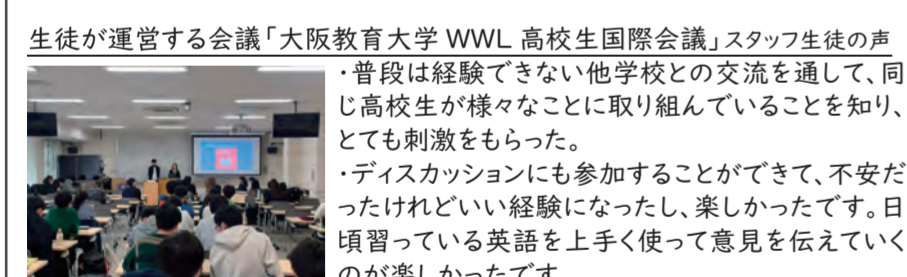
北海道教育大学附属旭川中学校における12年教育の取組み

【学校教育目標】
よく見 よく聞き よく思い
自立をめざす生徒
北海道教育大学附属旭川学校園は同じ敷地内に幼稚園、小学校、中学校が隣接し、普段から授業のみならず行事や分掌間連携など協働して教育活動に取り組むことができる環境が整っている。この地の利を生かして、3校園では12年教育として、道徳教育と英語教育を軸とした連携を行っている。中学校では、これら教育活動の集大成の場として総合的な学習の時間「グローバル」を位置づけている。



大阪教育大学附属高等学校池田校舎 WWLコンソーシアム構築支援事業の取組み

2020年度から2023年度まで、文部科学省指定の「WWL コンソーシアム構築支援事業」の共同実施校として、これからの世界で活躍できる力の育成を目標に、様々な取り組みを行ってきました。2024年度以降は、これまでに培われた成果を、「総合的な探究の時間」および学校設定科目「グローバル探究」の授業に継承していきます。取組み詳細は、本校 HP (右の二次元コード) で紹介しておりますので、ご覧ください。



生徒が運営する会議「大阪教育大学 WWL 高校生国際会議」スタッフ生徒の声
・普段は経験できない他学校との交流を通して、同じ高校生が様々なことに取り組んでいることを知り、とても刺激ももらった。
・ディスカッションにも参加することができて、不安だったけれどもいい経験になったし、楽しかったです。日頃習っている英語を上手く使って意見を伝えていくのが楽しかったです。

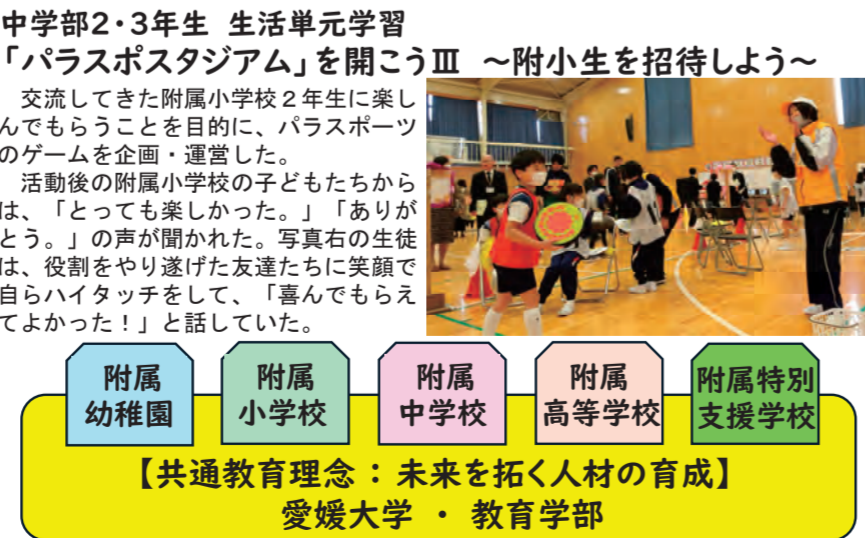
データを活用する方法を学ぶ授業「データサイエンス」受講生徒の声
パソコンの使い方やデータの分析をあまりやったことがなく、うまくできるか不安だったけれど、修学旅行の思い出を振り返りながらアンケート項目を考えたことや、様々な分析方法に挑戦したりすることで、楽しんで取り組むことができました。講義を通して学んだデータの収集・分析や人工知能については、他分野でも活かすことができるものであり、この学びを大切にしたいと感じました。

愛媛大学教育学部附属特別支援学校の取組み

研究主題 貢献を実感し、共に育つ子どもの育成
～学びをつなぐカリキュラム・マネジメントを中心に～ (令和4年度～令和6年度)

本校では、学校教育目標の具現化のため「各教科等を合わせた指導」を軸とした教育活動を行っている。今期研究では、子どもの学びをつなぐ「単元配列表」を作成し、キャリア教育の考えに基づき内面の育ちを重視した授業実践を重ねている。附属学校園は大学と一体感をもって運営されており、大学の先生方が日常的に本校の研究実践等に関わっている。共に創り上げた授業の一端を紹介する。

高等部3年生 生活単元学習
卒業後の生活へ虹の橋を架けようⅣ ～後輩に伝えたいこと～
卒業を間近に控えた高等部3年生が、自分の経験を基に「高3ハローワーク」を開き、後輩の不安や課題に対して、一緒に考えたり、アドバイスをしたりする機会もあった。この学習を通して、高等部3年生は、これからの自分についてより深く考えることができた。写真左の生徒は、「進路で悩んでいた〇〇さん(後輩)に、「自分の経験を伝えられてよかった。」と話していた。



金融経済教育

J-FLEC 金融経済教育推進機構

J-FLEC logo and QR code for the official website. Text: お金の知識をあなたの力に J-FLEC

J-FLECは金融経済教育を推進するため、法律に基づいて設立された中立・公正な認可法人です。
J-FLECは、中立的立場から金融経済教育を広く提供していくことを通じて、誰一人取り残すことなく、みなさん一人ひとりが輝く、フィナンシャル・ウェルビーイングの実現を支援するとともに、自立的で持続可能な生活を送ることもできるように関わっています。

J-FLECの主な事業

Table with 3 columns: 事業内容 (Business Content), 事業の概要 (Business Overview), 対象の方 (Target Audience). Lists programs like 'Financial Literacy Education' and 'Financial Literacy Education Research Institute'.

講師派遣 (出張授業)

全国の企業や学校・公民館等に講師を派遣し、金融経済に関する様々なテーマの出張授業を無料で実施しています!
金融経済に関する様々なテーマの中から、受講者のご希望に沿った内容に合わせた出張授業を行います(土日・祝日も実施可能です)。ご希望の際は、J-FLECのホームページ内にある「講師派遣 (出張授業)申込フォーム」からお申し込みください。

J-FLECの推進で学べる主な内容

Table with 3 columns: 年齢層 (Age Group), 講師派遣で学べる主な内容 (Main Content), より詳しく学びたい方向け詳細コンテンツ (Detailed Content). Lists topics like 'Basics of Finance' for elementary school and 'Advanced Financial Literacy' for high school.

附属学校の思い出

愛知教育大学附属中学校OB 財務省大臣官房地方課 広報連絡係 課長補佐 浅井 智士 氏
愛教大附属岡崎中学校に通った三年間、それは刺激に満ちた時間でした。
まず入学直後、生徒会での議論により、学生カバンの自由化が賛成多数で実現。買ったばかりの学生カバンの行方を案ずることになった。1～2年生では学年全体で企画した百キロをキャンパスしながらの踏破イベント、三年生では阪神淡路大震災・地下鉄サリン事件などの社会環境の中で、首都圏の様々な団体に訪問活動した修学旅行がありました。急ぎよ地下鉄等の利用禁止、全班列にポケベル配布など、現地でこれらを差配した先生方の苦勞が今でも想われます。また、こうしたイベントだけでなく、普段から何かを「追究」していた姿が思い出されると同時に、こうした環境に送り出してくれた両親、こうした環境で一緒にいた先生や友人など、関係する皆さまにあらためて感謝を持つところでした。
現在、財務局で働いており、出先機関である財務省を通じて中高生向けに実施する「財政教育プログラム」という出前授業等を担当しています。本プログラムは、自身の描く未来やその実現に向けた課題解決の手段などについて、ICT機器の活用及びグループワークによる議論を通じて、①日本の財政に興味を持つ、②社会問題をとらえ、自ら提案する、③受益と負担の理解を深め、多面的な見方を可能にする、④多様な意見の集約には民主主義的な過程が重要であると認識する、という効果を期待しています。平成二十七年に全附P連と連携のもと、この取組が始まりました今年で十年目を迎えておりますが、附属学校での評判が公立学校等へも広がって実績も増加してきています。是非お申し込みください。

金融経済教育推進機構 理事長 安藤 聡 氏
近年、改訂後の学習指導要領等に基づき、学校における金融経済教育の充実が図られるなど、金融経済教育の重要性が高まっています。こうした中、本年4月、金融経済教育推進機構(J-FLEC)が設立され、8月に本格稼働する予定です。J-FLECは、国民一人ひとりが、より自立的で安心かつ豊かな生活を実現できるよう、全国で広く「学びの場」に取り組んでいます。
J-FLECは、教育現場向けの活動として、主に①講師派遣事業と②教員の方向けのイベント・セミナー事業、③学校等への支援事業に取り組んでいます。

まず、①講師派遣事業です。J-FLECは、全国の学校等に、一定の中立性を有し、かつ顧客の立場に立ってりと評価可能なJ-FLEC認定アドバイザー(J-FLEC講師)を派遣し、出張授業(無料)を行います。この講師派遣では、年齢層別に最低限身に付けるべき金融リテラシーを体系的に整理した「金融リテラシーマップ」に沿った授業を実施します。例えば、小学生向けの出張授業であれば、おこづかいの使い方や貯め方、お金の流れ、つらぶらの事例等が主な学習内容として考えられます。
次に、②イベント・セミナー事業です。J-FLECは、全国各地で、教員の方等を対象としたイベント・セミナー(無料)を開催します。例えば、教員の方向けには、授業でお金について教える際のポイントや、授業で使っているJ-FLECの教材の体験等を盛り込む予定です。
そして、③学校等への支援事業です。J-FLECは、教育現場への講師派遣のほか、学校の先生方が授業で使用することのできる学習教材の無償提供を行います。また、「金融経済教育研究校制度」やJ-FLEC内に設置する「学校・教員支援研究会」を通じて、学校における効果的な授業のあり方について研究を進め、広く普及していきたいと思います。金融経済教育研究校制度とは、全国各地で、金融経済教育に関する活動や実践に積極的に取り組む学校を指定・支援するための制度です。また、学校・教員支援研究会においては、金融経済教育に関するコンテツの制作やより実効的な学校・教員の方への支援のあり方等について、金融分野・教育分野の有識者や教育関係者から構成される委員会に検討いただきます。なお、これらの成果物については、教育関係者の方々に幅広くご利用いただけるよう、J-FLECのウェブサイトでも公開します。

現代は、金融・経済に関する情報にあふれ、また金融に関する様々な手法を簡単に試せる時代です。国民一人ひとりがより豊かな暮らしを送るためには、このような状況をうまく活用することが重要です。そのためには、「お金の知識」を身に付け、また時代や状況に応じてこれをアップデートすることが求められます。
「お金の知識をあなたの力に」。これが、J-FLECのキャッチフレーズです。
金融リテラシーの向上とは、単に知識を習得するにとどまらず、その知識を適切な判断や行動に結びつけられるようになることを意味します。金融・経済を取り巻く環境がめまぐるしく変化の中で、J-FLECは、国民や教育関係者の皆様と一緒に、学び、成長していきます。

本稿でご紹介した内容を含め、講師派遣のお申込みやJ-FLECの詳細については、公式ウェブサイトをご覧ください。

「子どもたちとこの国の未来のために」

全附P連特集III

一、在り方や役割の見直し
二、大学との連携
附属学校の中には、教育課題への取組みの成果普及が不十分な学校や、独自の関心に基づく教育研究への意識が強いあまり、地域のモデル的な取組みが不十分で、大学による

附属学校の在り方や役割の見直しを求められる時代の変革期に

なご、平成二十九年有識者会議の設置要項には、「附属学校の課題を洗い出すとともに、改革の方向性を示す」旨が記されています。

全附P連の挑戦
平成二十九年有識者会議を受け、全附P連は、強い危機感から様々な勉強会を開催し、有識者を含め、附属学校への理解と支援の輪を確実に社会に向け広げていきます。最後に、平成二十九年有識者会議以降の全附P連の活動を紹介します。

子どもたちとこの国の未来のために、日本の公教育を支えます



特集解説

前号に続き、全附P連特集を掲載しました。前号の編集後記で、「平成29年有識者会議の報告に対する危機感」と表現した近年附属学校や全附P連が直面する状況を、本号ではその起点から見つめ直し迎えるよう努めました。現在も全附P連は、附属学校の課題に対する対応策への取組みを、関係団体とともに支援する活動を展開しています。「改革と周知」において、不定期ながら新たな潮流を伝え、周知することは、重要な使命のひとつです。今後も附属だよりでは、新しい時代に向かう全附P連の活動を積極的に発信していきます。

二、大学との連携
附属学校の中には、教育課題への取組みの成果普及が不十分な学校や、独自の関心に基づく教育研究への意識が強いあまり、地域のモデル的な取組みが不十分で、大学による

附属学校の在り方や役割の見直しを求められる時代の変革期に

なご、平成二十九年有識者会議の設置要項には、「附属学校の課題を洗い出すとともに、改革の方向性を示す」旨が記されています。

全附P連の挑戦
平成二十九年有識者会議を受け、全附P連は、強い危機感から様々な勉強会を開催し、有識者を含め、附属学校への理解と支援の輪を確実に社会に向け広げていきます。最後に、平成二十九年有識者会議以降の全附P連の活動を紹介します。

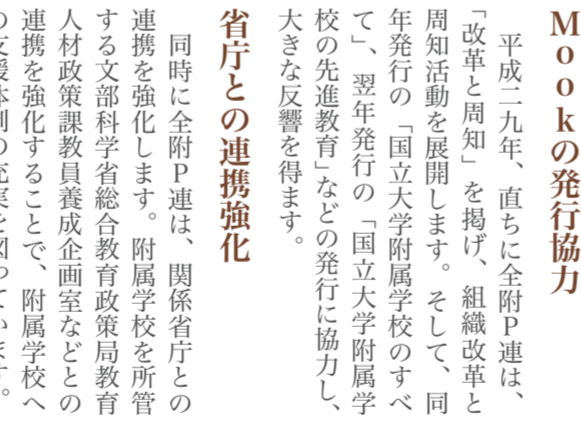
二、大学との連携
附属学校の中には、教育課題への取組みの成果普及が不十分な学校や、独自の関心に基づく教育研究への意識が強いあまり、地域のモデル的な取組みが不十分で、大学による

附属学校の在り方や役割の見直しを求められる時代の変革期に

なご、平成二十九年有識者会議の設置要項には、「附属学校の課題を洗い出すとともに、改革の方向性を示す」旨が記されています。

全附P連の挑戦
平成二十九年有識者会議を受け、全附P連は、強い危機感から様々な勉強会を開催し、有識者を含め、附属学校への理解と支援の輪を確実に社会に向け広げていきます。最後に、平成二十九年有識者会議以降の全附P連の活動を紹介します。

子どもたちとこの国の未来のために、日本の公教育を支えます



特集解説

前号に続き、全附P連特集を掲載しました。前号の編集後記で、「平成29年有識者会議の報告に対する危機感」と表現した近年附属学校や全附P連が直面する状況を、本号ではその起点から見つめ直し迎えるよう努めました。現在も全附P連は、附属学校の課題に対する対応策への取組みを、関係団体とともに支援する活動を展開しています。「改革と周知」において、不定期ながら新たな潮流を伝え、周知することは、重要な使命のひとつです。今後も附属だよりでは、新しい時代に向かう全附P連の活動を積極的に発信していきます。

P T A未来の架け橋プロジェクト V o l . 1 ~ 5 全編公開中

全附P連が考える新しい時代のPTAのあり方について、全附P連や附属学校の歴史や活動を、附属学校PTAを代表するPTA活動の情報とともに動画に記録し、全附連ホームページで公開しています。

- Vol.1 「PTAの存在意義」
Vol.2 「全附P連と附属学校の意義」
Vol.3 「サンセットフェスティバル」
Vol.4 「Farm りんどう」
Vol.5 「つながり」

「改革と周知 Reform and Inform」

全附P連特集II

「附属学校」とは
全国公立大学附属学校（以下、「附属学校」）を支援するために様々な関連団体が活動しています。特に附属学校の保護者や教職員によって構成されるPTA連合会や学校連盟の二つの団体は、長年に渡り附属学校を支えています。

全附連 = 全附P連（PTA連合会） + 全附連盟（学校連盟）

や使命を担っています。
一、大学・学部、教職大学院や、地域と連携した教員養成
二、実践的で先導的な学校教育の実践研究による指導法の開発
三、大学・学部、教職大学院における教育研究への協力

全附P連の歴史
これまで、全附P連や全附連盟、附属学校などの存在意義や使命について詳しくみてきました。ここからは、その設立の背景となる歴史について、明治維新後の教育改革の実践から戦後の学制改革まで、時間を遡りみていきます。

附属学校の公益性・公共性を支援する「改革と周知」への道程

全附連の結成
その後、全附P連と全附連盟は全附連を結成し、附属学校の活動支援を効果的に、その魅力や存在意義の正当性について社会の理解を深めることで、時代の節目に議論される附属学校の廃止論に力強く対抗し、対応に努めます。

令和5年度いじめ防止対策活動助成事業について

「SOSの出し方を育てる」講師 弘前大学教育学部助教 新川 広樹氏
令和5年12月21日(木)、いじめ防止対策事業として、弘前大学教育学部附属小学校で、弘前大学教育学部助教の新川広樹氏を講師にお招きし、「SOSの出し方を育てる」をテーマに講演を行っていただきました。

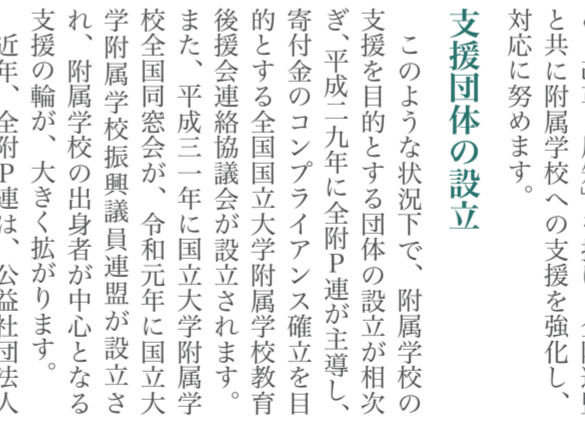
「改革と周知」
しかし、平成二十九年有識者会議の報告がなされ、附属学校に合理的機能強化と客観的根拠に基づく成果が求められると、全附P連は、附属学校の公益性や公共性をより高めるため「改革と周知」を掲げ、全附連盟と共に附属学校への支援を強化し、対応に努めます。

附属学校の公益性・公共性を支援する「改革と周知」への道程

全附連の結成
その後、全附P連と全附連盟は全附連を結成し、附属学校の活動支援を効果的に、その魅力や存在意義の正当性について社会の理解を深めることで、時代の節目に議論される附属学校の廃止論に力強く対抗し、対応に努めます。

全附P連の法人化
令和二年、全附P連は、運営の公益性を高め、社会的信用を確立し、一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会として法人化を成しました。現在も附属学校の公益性や公共性を高める教育活動を支援し、各種事業を開発団体とともに継続的に展開しています。

子どもたちとこの国の未来のために、日本の公教育を支えます



特集解説

前号に続き、全附P連特集を掲載しました。前号の編集後記で、「平成29年有識者会議の報告に対する危機感」と表現した近年附属学校や全附P連が直面する状況を、本号ではその起点から見つめ直し迎えるよう努めました。現在も全附P連は、附属学校の課題に対する対応策への取組みを、関係団体とともに支援する活動を展開しています。「改革と周知」において、不定期ながら新たな潮流を伝え、周知することは、重要な使命のひとつです。今後も附属だよりでは、新しい時代に向かう全附P連の活動を積極的に発信していきます。

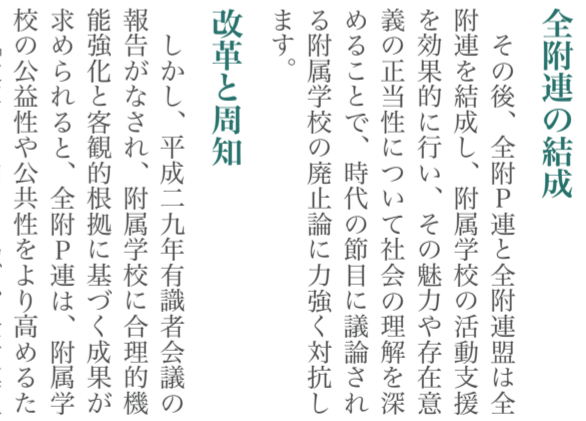
「改革と周知」
しかし、平成二十九年有識者会議の報告がなされ、附属学校に合理的機能強化と客観的根拠に基づく成果が求められると、全附P連は、附属学校の公益性や公共性をより高めるため「改革と周知」を掲げ、全附連盟と共に附属学校への支援を強化し、対応に努めます。

附属学校の公益性・公共性を支援する「改革と周知」への道程

全附連の結成
その後、全附P連と全附連盟は全附連を結成し、附属学校の活動支援を効果的に、その魅力や存在意義の正当性について社会の理解を深めることで、時代の節目に議論される附属学校の廃止論に力強く対抗し、対応に努めます。

全附P連の法人化
令和二年、全附P連は、運営の公益性を高め、社会的信用を確立し、一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会として法人化を成しました。現在も附属学校の公益性や公共性を高める教育活動を支援し、各種事業を開発団体とともに継続的に展開しています。

子どもたちとこの国の未来のために、日本の公教育を支えます



特集解説

前号に続き、全附P連特集を掲載しました。前号の編集後記で、「平成29年有識者会議の報告に対する危機感」と表現した近年附属学校や全附P連が直面する状況を、本号ではその起点から見つめ直し迎えるよう努めました。現在も全附P連は、附属学校の課題に対する対応策への取組みを、関係団体とともに支援する活動を展開しています。「改革と周知」において、不定期ながら新たな潮流を伝え、周知することは、重要な使命のひとつです。今後も附属だよりでは、新しい時代に向かう全附P連の活動を積極的に発信していきます。

# 第6回全附P連 作文・絵作文コンクール 「せんせい、ありがとう！」

全国の附属学校の子どもたちへ先生への感謝の気持ちを伝える作文・絵作文を募集しました。自筆で大切な思いを伝える成長への手がかりとなることを期待しています。



審査委員長 くすのきしげのり 氏

テーマは、「先生へのメッセージ」や「先生との思い出」です。第6回目を迎えた今年も全国の国立大学の各附属学校から、たくさんの素晴らしい作品の応募がありました。今年度はコロナ禍を越え、やっと通常の学校生活に戻ってきたことと思います。またその過程では運動会などの学校行事や様々な活動の見直しが進み、アップデートされ、新たな形となったものも多いのではないのでしょうか。コロナが流行したときやその後にあたる本年度がそうであるように、学校は様々な変化に対応しながら教育活動が進められています。

どのような状況であっても学校には子どもたちの毎日の成長があります。そしてそこには、より良い成長を願い日々寄り添い見守る先生方の姿があります。多くの業務の中にあっても休み時間には子どもと遊ぶ先生。自分で考えることを促しその過程を認める先生。不安な心に温かく寄り添う先生。苦手なことに挑戦する背中を優しく押してくれる先生。応募作品には、そんな学校の様子や先生との学校生活がいきいきと表現されていました。一人ひとりをしっかり見つめる先生のまなざしに対する信頼や尊敬や、感謝の気持ちも読み取ることができ、今回も、審査をしながら心動かされる作品がたくさんありました。子どもたちの毎日にして先生方の人生に、たくさんの笑顔があることを心より願っています。

くすのきしげのり 児童文学作家

1961年生まれ、徳島県鳴門市在住。鳴門教育大学大学院修了。小学校教諭、鳴門市立図書館副館長を経てオフィスKUSUNOKIを設立。現在は、作家として児童文学を中心とする創作活動と講演活動を続けている。数多くの教科書掲載作品をはじめとする200タイトルを超える作品は、日本および海外で広く読まれている。また日本児童文芸家協会評議員、徳島児童文学会会長、絵本・応援プロジェクト代表、四国大学文学部非常勤講師（絵本・児童文学創作）などを務め、日本児童文学の発展に寄与されている。

## 【会長賞】福岡教育大学附属福岡小学校4年 水間 瑛 「わたしを変えたFVC」

審査委員長講評 ボランティアの掃除を50回するともらえるFVC（附属ボランティアクラブ）のバッジを目標に1年生から始めたボランティア活動。それが先生のアドバイスをきっかけに、いつしかバッジのためではなく、自分の意志で進んでするようになりましたね。3年生になっても4年生になっても一人になっても自分の日課として活動を続ける作者。その姿に寄り添い、ともに掃除をする副校長先生。終業式での活動の発表。そして活動に参加する仲間が増えました。4年間の毎日の積み重ねが、作者を大きく成長させたことがはっきりと伝わってきます。

### 【優秀賞】

- 千葉大学教育学部附属幼稚園年長 齊藤 成悟
- 三重大学教育学部附属小学校2年 吉田 唯菜
- 東京学芸大学附属小金井小学校3年 上杉 清巴
- お茶の水女子大学附属小学校5年 山田 真緒
- 鹿児島大学教育学部附属中学校3年 中村 愛花
- 静岡大学教育学部附属特別支援学校小4年 佐藤 優太

### 【特別賞】

- 最優秀学校賞 福岡教育大学附属小倉小学校
  - 優秀学校賞 愛知教育大学附属名古屋小学校
  - 福岡教育大学附属福岡小学校
- ※敬称略、順不同。学年は受賞時。
- 応募期間 令和5年12月1日（金）～令和6年1月24日（水）
- 審査会 令和6年2月14日（水）
- とくぎんトモニプラザ（徳島県青少年センター）

第6回作文・絵作文コンクールの作品集を発刊しました。右のQRコードより全ての受賞作品をご覧ください。

## 第20回 全附P連絵画コンクール

テーマ 「みんなの思い、あつまれ！」

- 応募資格 附属学校の園児・児童・生徒
- 応募期間 8月26日（月）～9月6日（金）
- 主催 全附P連
- 主管校 山形大学附属四校園
- 後援 山形県
- 備考 応募は1人につき1点
- 応募方法はQRコードから
- 広報委員会 kouhou.zenfu@gmail.com



## 附属学校・PTA活動情報 募集

「附属学校・PTA活動事例集」

全附P連では、全国の附属学校やそのPTA団体が取り組む活動情報を募集し、全附連ホームページやSNSで公開しています。

募集内容 附属学校やPTAから活動情報を募集しています。

- 活動事例 主催する行事や活動、ICT教育、防災・防犯の取組み、働き方改革、SDGsの取組み、部活動の改革、大学や地域、産学連携事業 など



提供方法 QRコードを読み取り、活動情報をご提供ください。

わたしを変えたFVC 福岡教育大学附属福岡小学校 4年 水間 瑛

わたしは、FVCの活動を通して、先生方への感謝の気持ちを伝えることができました。先生方のおかげで、毎日楽しく学校生活を送ることができています。先生方の笑顔が、私を元気づけてくれます。先生方への感謝の気持ちを伝えることができました。先生方のおかげで、毎日楽しく学校生活を送ることができています。先生方の笑顔が、私を元気づけてくれます。

わたしを変えたFVC 福岡教育大学附属福岡小学校 4年 水間 瑛

わたしを変えたFVC 福岡教育大学附属福岡小学校 4年 水間 瑛

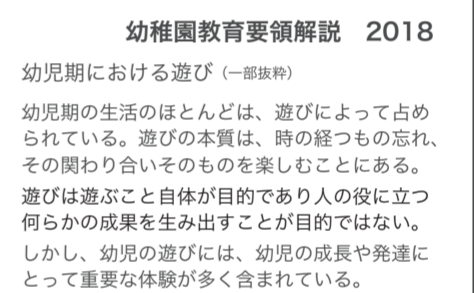
## 幼稚園特別支援特集



私たち三重大学教育学部附属幼稚園友会は、令和四年度友会活動のスリム化の一環として、バザーを廃止しました。しかし、子どもたちのために、代わりとなる新しい活動が出来ないかと、オリジナルTシャツの販売企画を始めました。昨年度、販売企画を立ち上げた同じ時期に同附属特別支援学校の校長先生から、生徒がTシャツの制作を就労に向けた授業で行っているとのことでした。そこで、私たち幼稚園の作成を特別支援学校の生徒に依頼できれば、幼稚園と特別支援学校の校種を超えたり、温かい思いが詰まったTシャツになるのではと考え、特別支援学校に依頼する方向で動き始めました。

## 附属幼稚園と附属特別支援学校の子どもたちのための交流活動

から「自分たちが制作したTシャツを幼稚園の子どもたちが喜んで着ていたら、生徒たちも凄く喜ぶと思います。モチベーションになると思います。」と聞き、園児用の白Tシャツの作成を依頼しました。完成したTシャツは、生徒たちから園児たちへ直接手渡ししていただきました。納品のために来園した生徒たちは、「サイズが小さいので、難しかった」と「喜んで着て嬉しそう」と、笑顔で気持ちを伝えてくれました。また、園児たちも特別支援学校のお兄さん、お姉さんがTシャツを制作してくれたことが、本当に嬉しそうでした。特別支援学校友会長からは、「生徒たちも大口の依頼で、製品を作ることに責任感を持って取り組みました。また、直接納品して子どもたちが喜ぶ姿を見ることができ、さらに自信がついたようです。これからも交流が増えるといいですね」という言葉をいただきました。



令和六年二月三日、「子どもたちの食の重要性について」をテーマに、北海道教育大学特別支援学校元副校長の太田千佳子氏をファシリテーターにお迎えし、福井大学附属特別支援学校の尾崎栄義教諭、山梨大学附属特別支援学校の廣瀬栄義教諭、大分大学附属特別支援学校の丸山栄義士、高津義護教諭が、三校の取組みを紹介する事例発表を行いました。事例発表からは、各附属学校で、ひとりひとりに寄り添った教材を作成していることや、給食の提供においても

## 特別支援保護者交流会 2月3日開催

様々な促しを通じて、子どもたちの身体と心を育てる「食育」の重要性、そしてその奥深さを改めて学ぶことができました。その後の交流会では、質疑応答に留まらず、参加者の不安に対する相談も行われ、日常の悩みを共有しました。後日、参加者には、各校の人気メニューのレシピをメール配信で公開し情報共有を行うなど、非常に実りある交流会となりました。来年度も、引き続き実施を予定していますので、是非ご参加の程、よろしくお祈りします。

## カンガルーシップ活動助成 募集

様々な個性を持つ方への理解を深め、共に生きる意味を知るための新しいPTA活動への助成事業です。本年度は、障がいに対する理解向上につながる、これまでの4つのカテゴリに新しく映画「うまれる」上映会をラインナップに加えました。子どもたちの障がいへの理解を深める活動を募集しています。

## あいさポーター研修 募集

あいサポート運動は、障がいの特性を理解し、ちょっとした手助けにより誰もが暮らしやすい社会を創っていく運動です。全国の附属学校が、地域における「やさしさの中心」となっていけるよう、全附P連は、附属学校の子どもたちや保護者の方を対象とした「あいさポーター研修」の開催を推進しています。

## 幼稚園保護者交流会 5月18日開催

またパネルディスカッションでは、各パネリストから附属幼稚園の魅力や幼児期における遊びの意義について、ご自身の経験とお立場から具体的事例を示していただき、大変有意義な時間となりました。参加者の皆さんには一言ずつ自己紹介も含めてお話しいただき、話すことでさらに交流が深まったと感じます。子供の意見をどこまで尊重すべきか、遊びを提供する側の親はどうのように考えればいいのかなど、バランスに悩むことが多い保護者にとつても貴重な交流の場となりました。

## 幼稚園活動助成を始めます

全附P連は、附属幼稚園の幼児教育を支えるPTA活動を支援するため、本年度より新しく「幼稚園活動助成事業」を実施します。附属幼稚園PTAが取り組む「新規事業を立ち上げたい」「既存事業をより良いものにしたい」という思いを応援します。詳しくは、QRコードから全附連ホームページの「幼稚園活動助成」をご覧ください。申請書を作成し、お申し込みください。助成活動の数に限りがございますので、早期のお申し込みをお願いします。附属幼稚園を支えるPTAの皆様からのご応募をお待ちしています。



カンガルーシップ活動助成 「うまれる」公式HP あいサポート運動 幼稚園活動助成

### 第3回全国同窓会開催

3月1日(金)リーガロイヤルホテル東京



国立大学附属学校全国同窓会



東京国立博物館長 藤原誠氏による基調講演

令和六年三月一日、リーガロイヤルホテル東京にて、各界で活躍する附属学校出身者を中心に多くの参加者が集い、「国立大学附属学校全国同窓会・第三回総会及び大同窓会」が開催されました。

其調講演では、文部科学省大臣官房長などの重職を歴任し、現在、東京国立博物館館長を務める藤原誠氏(東京芸芸大学附属高等学校出身)が登壇し、日本と東洋の文化とともに国内で最古の博物館の魅力や存在価値を語り、参加者にとって文化を継承することの大切さについて、学びのある時間となりました。

また、その後の懇親会では、参加者がそれぞれの母校への思いを

伝え合うなど、地域の隔てなく交流がなされ、今後とも同窓生が様々な場面で、附属学校への思いや声援を伝えていこうとする機運醸成につながりました。

附属学校は、長年「わたり、日本の公教育に貢献してきました」。

しかし、平成十六年から始まった国立大学の法人化以降、附属学校を取り巻く環境や時代に大きな変化があり、現在では様々な課題を抱えています。

今後国立大学附属学校全国同窓会は、交流の場を数多く設け、附属学校出身者や関係者の絆を深め、日本の公教育を力強く支えるため、全国の附属学校への応援の輪を広げていくことを目指します。

### 4月に学校園に郵送した『教育後援会運営ガイドライン』是非ご活用ください！

教育後援会理事長挨拶

全国国立大学附属学校教育後援会連絡協議会 理事長 寺本俊彦氏

平素より全附P連の皆さまは当会の活動に際し、ひとかたならぬご支援を賜り厚く御礼申し上げます。おかげさまで発足から八年目のシーズンに入り、しかし、当初から理事を務めるのは、いよいよ私を残すだけとなりました。

当会の使命でもあります国立大学附属学校の教育後援会に対し運営のあるべき姿をどのように示すべきか、関係各所と調整を進め、昨年度より「教育後援会運営ガイドライン」を発刊することができました。

現在、ガイドラインを活用した周知・啓蒙活動に取り組んでおりますが、今年度初めに、全附連に加盟するすべての学校園および、日本教育大学に加盟するすべての大学に対し「教育後援会運営ガイドライン」を送付いたしました。

今後とも附属学校教育後援会関係者に対し、オンラインでのセミナー含めあらゆる機会を通じて本ガイドラインの有用性を感じていただけるよう発信し続けてまいります。

引き続き、当会に変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

#### 全附P連QRコード

全附P連ホームページ | 全附P連パンフレット | 全附P連チャンネル | Instagram | Facebook

#### 全附P連パンフレット改訂版発行

前回パンフレットの改訂を行った令和元年度より約4年が経過する間、創立70周年ビジョンの策定など、最新情報への加筆や修正が必要となり、本年度改訂版を4月に発行しました。

表紙には明治から昭和初期の師範学校の写真を、裏表紙には現代の附属学校の写真を掲載し、附属学校の歴史と積み上げてきた時間を伝えるデザインとしています。全附P連パンフレットは、全附連ホームページに掲載しています。

#### 全附P連PTA研修会 第15回全国大会開催

子どもたちとこの国の未来のために～語り合おう、いまわたしたちのできることを～

日程 令和6年9月27日(金) 13時～9月28日(土) 9時～

場所 リーガロイヤルホテル東京

対象 附属学校園の保護者および教職員

主催 一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会

#### 発行所

全附連 | 全国国立大学附属学校連盟  
(一社) 全国国立大学附属PTA連合会  
〒113-0033  
東京都文京区本郷4-16-6  
文京区本郷四丁目ビル  
天翔オフィス後楽園9階905号室  
TEL 03-5990-9444 | FAX 03-5990-9445  
E-mail jimukyoku@zenfuren.org  
印刷 株式会社インテックス

#### 編集後記

例年、七月発行の誌面を閉じ、掲載してきた内容は、全附P連の総会や新年度体制など、全附P連の特色などについて、全附P連特集号(附属OB訪問)を通じて、詳しくお届けしました。これは、全附P連が、平成二九より掲げてきた「改革と周知」の周知に欠かせない重要な役割を担っており、今後の附属学校を取り巻く情勢や新しい動きを社会に共有し、適切な情報を共有することで、末尾に感じたいと思います。心より感謝いたします。(矢野)

#### 編集委員

全附P連  
令和五年情報広報委員会 関健太 (北海道教育庁保健中) | 令和六年情報広報委員会 木山慶子 (群馬大学共同教育学部附属特別支援学校) | 令和五年庶務広報委員会 藤原誠 (東京国立博物館) | 令和六年庶務広報委員会 齋藤伸 (福島特支) | 令和六年庶務広報委員会 齋藤伸 (福島特支) | 令和六年庶務広報委員会 齋藤伸 (福島特支)

## 2024年度 中途加入受付中 カンガルー保険のご案内

全国国立大学附属学校園の幼児・児童・生徒の保護者の皆様へ

この保険は(一社)全国国立大学附属学校PTA連合会の団体保険です。

### 団体総合生活保険

任意加入制度 24時間補償

約50%割引

24時間補償

加入対象者

加入手続き

申込締切日

### 全員加入制度

1 国児・児童・生徒、教職員の皆さまのケガなどを補償する

2 国児・児童・生徒、教職員の皆さまを犯罪被害から守りつつ

3 PTA活動に参加中の二両親、教職員の皆さまのケガや犯罪被害を補償する

2024年6月1日午後4時から2025年6月1日午後4時まで

### カンガルー保険・取扱代理店の お問合せ先

北海道・東北・関東・北信越・四国地区 | 株式会社 第一成和事務所 | 0120-100-492

《東海・近畿・中国・九州地区》 | 海上商事 株式会社 | 0120-745-748

### 全附P連 令和5年度団体表彰

#### 【会長賞】奈良教育大学附属幼稚園育友会

#### 「捨てちゃうものがステキに変身! ~未来のためにアップサイクル」



本園では、毎年育友会が主催し、「子どもたちと保護者の方々が、じっくり触れ合い楽しむこと」を目的としたイベントを開催しております。また園では、日頃よりSDGs・ESDに積極的に取り組まれており、子どもたちも私たち保護者もそれについてのお話を伺い学ぶ、機会が多くあります。

そこで今年度のイベントは、楽しく遊びながらSDGsをより身近なものとして捉えられる体験ができないかと考え「アップサイクル」をテーマに廃材を利用したクラフトを企画しました。

奈良には老舗の皮製品を扱う会社が多数あり、中でも子どもたちにも馴染みの深いランドセルの製造会社にご協力を依頼したところ、快くランドセル生地の廃棄部分を譲っていただくことができました。廃棄部分とは思えないほどの色とりどりで綺麗な皮生地をたくさんいただくことができ、長く使えるフォトフレームと、通園鞆やランドセルにつけられるキーホルダーの2点を制作することにしました。

イベント当日は、まず初めに子どもたちにアップサイクルとは何かについて、分かりやすい言葉でスライドを用いて説明しました。そして、協力いただいたランドセル会社では、どのようにランドセルが作られ、その過程でどうしても

全附P連では、全国の附属学校PTA活動において、特に独創的かつ模範的な活動に対し、団体表彰を行なっています。令和5年度会長賞を掲載します。

(令和6年度より「奈良教育大学附属幼保連携型認定こども園育友会」)

捨ててしまう部分が出てきてしまうこと、捨てられる部分をみんなの力で長く使える素敵なものに生まれ変わらせようというお話をしました。

生地を型に切ったり穴を開けたりという作業までは、予めこちらで準備し、

- 好きな色の生地と飾りのパーツを選ぶ。
- フォトフレームは、紐を通してカシメ金具で止める。キーホルダーも、金具を通してカシメ金具をつける。
- 生地に様々な模様の金型を押し当て木槌で上から叩き模様を付ける。

という3つの工程を子供たちに体験してもらいました。

子どもたちは、色とりどりの生地や初めて触れる道具に目を輝かせ保護者と協力しながら少し難しい作業にも夢中で取り組んでいました。子どもたちからは「もっとやりたい!」「またやろうね!」という嬉しい声もたくさん聞かれ、保護者の方々からも「捨てる部分を減らすことを親子ともに意識していきたい」「廃材から作ったとは思えないかわいい作品ができた」「子どもがワクワクして何度も挑戦していた」などのご感想をいただきました。

アップサイクルを実験することで、よりSDGsにも興味や関心を持ち、自分事として捉える機会にもなったのではないかと思います。

#### 【審査講評】

地元企業とのコラボレーションを通じて、廃棄物を再利用し、新たな製品を生み出す素晴らしい事例です。子どもたちが、廃材を再利用することで、創造性や持続可能な発想力を養うことができます。ランドセル革地の再利用は、喜びと楽しさを提供するだけでなく地域の産業にも貢献しています。

#### 【優秀賞】

特に継続的なPTA活動へ繋がる取組みを積極的に実施し、附属学校の魅力を高める、次の7校園のPTA団体が、優秀賞を受賞しました。

- 大阪教育大学附属平野小学校PTA 「みんなで海の豊かさを守ろう!へちまプロジェクト」
- 鳥取大学附属小学校懇話会 「わくわく!附小の防災体験」
- 大分大学教育学部附属幼稚園PTA 「祖父母ふれあいデー」
- 三重大学教育学部附属幼稚園育友会 「特別支援学校と幼稚園をつなぐ幼稚園育友会オリジナルTシャツ大作戦!!」
- 京都教育大学附属学校園育友会連合会 「京都6学校園が楽しく親睦できる合同交流事業への改革」
- 福岡教育大学附属幼稚園PTA 「研修部主催のさつまいもの植付けから収穫まで」
- 熊本大学教育学部附属特別支援学校PTA 「令和4・5年度熊本大学教育学部附属特別支援学校PTA実践集」

また、デザインや製造のプロセスを通じて、子どもたちが実践的な経験を積むことも重要です。このような活動はSDGsの取組みにも貢献し、地域社会との連携を強化します。外部の連携やSDGsへの取組みを通じて、より広範囲での影響を生み出すことが期待出来る活動として会長賞としました。

応募期間 令和6年1月9日(火)～2月29日(木)  
審査 令和6年3月17日(日)

【活動例】

- 社会教育的効果や、学校・親子の絆づくり
- 大学と連携した活動
- 附属の地域貢献に大きく寄与した活動
- 子ども生活支援(貧困)への取組み
- いじめ防止対策への取組み
- PTA活動の効率化(運営の質をみがき向上を図る活動)
- 共働きなど今の社会環境に対応した役員組織改革
- スポーツを通じた活動で、継続的、発展性を持つ取組み
- SDGsに関する教育活動 など

## 教育界と共に歩んで78周年 日本最大の教育専門全国紙 日本教育新聞

全附P連 連載記念!

全附P連 連載記念!

〇全国国立大学附属学校PTA連合会の連載を毎月掲載

◆第1回全国国立大学附属学校PTA連合会連載 令和6年(2024)4.15

〇国立大学附属学校の魅力を教育界へアウンス

全附P連の情報を元に取材を行います。ご紹介いただきました国立大学附属学校園の魅力な様子、意義や価値につきましても教育界へアピールいたします。

【お申し込み】必要事項 ◆教育現場の必須アイテム! 国立大学附属学校園で求める教育情報が毎週届きます。是非ともこの機会にご購読ください。